

第1回枝幸町地域公共交通活性化協議会 議事録

●開催概要

日 時 令和元年8月6日（火） 13:30～14:30

場 所 枝幸町役場3階 第1・2会議室

出席者 別紙のとおり

●議事内容

1. 開会

【事務局】

皆様、何かとお忙しく、暑い中、お集り頂きまして誠にありがとうございます。

令和元年度第1回枝幸町地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。

本日の会議は、設置第6条第2項において議員の半数以上が出席しないと会議を開くことができないとされていますが、20名中18名ですので、まずもって会議が成立していることをお知らせいたします。会議に入ります前に春の人事異動により議員の変更がありましたので紹介をさせていただきます。

まず、今井副町長からご挨拶を願います。

2. 会長あいさつ

【今井会長】

委員の皆さまにおかれましては、お盆を控え8月の大変お忙しい中、お集りいただきまして誠にありがとうございます。本年、3月の協議会におきまして枝幸町地域公共交通網形成計画の素案について決めさせていただきましたが、ご承知の通り、これまでの間、枝幸ハイヤーの事業撤退により対応に気を取られていたことから当初予定していたスケジュールよりも遅くなったの令和元年度第1回目の開催となりましたことをお詫び申し上げます。本日の会議におきましては枝幸町地域公共交通網形成計画の案について説明をさせていただきますが、委員の皆さまからご忌憚のない意見をお伺いしたいと思いますので、引き続きご発言頂きたくお願い申し上げます、簡単ですがご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

3. 議事

(1) 協議事項 協議第1号 枝幸町地域公共交通網形成計画（案）について

・事務局より説明

【田邊谷委員】

バスのことからハイヤーとの関係で申しますと、デマンドを行うということです。もしうちに仕事 came 場合には経営が成り立つのかということが不安です。やりだしてしまって難しいということがわかっては困りますので内容についてお聞きしたいです。枝幸もこれから業者が変わると思うので成り立たないのに始めてしまうと同じことを繰り返してしまいます。

【事務局】

今の件なのですが、この計画を進めていく中でデマンドタクシーというものを取り入れていくという段階におきましては、その形態がこういった形が良いのか、その立案からスタートすることになります。町からの委託が良いのか、町の直営で運営をするのが良いのかといったことを含めてゼロベースからの検討になります。この協議会につきましてはこの計画ができて終わりというものではありません。今後も協議会の中で部会等を通じて経営を含めた運行形態を作り上げるかを検討しながら作り上げていきたいと今の段階では考えております。

【田邊谷委員】

これは運輸をやっている方、皆が同じ考え方ですが、減便の話が出ています。私たちの空いている時間の拘束は16~18時間と長い状況です。働き方改革の問題とぶつかります。労働者はどうなるのでしょうか。そういうことまで考えて様々なことを計画にしているのか心配です。その部分は無賃金で良い、という話に持っていかれないか。そうするとアルバイトになってしまう。新しい営業所や、事業者でも、そこで働いている人がどういう待遇をされるのか、経営者がどう仕事を受けるのかという所まで考えてくれないと、二の舞を踏んでしまいます。

【事務局】

その件につきましても、バスの減便、見直しについては、既に宗谷バスを含めて話を勧めさせて頂いております。それが何便になるのかというのはこれからの段階なのですが、考えた段階で運転手の状況や人の割り振り、タイヤが減ることにより運転手が解雇されることになるということが無い様に事業者と話をしながら進めさせて頂きたいと考えております。

【田辺委員】

P45の施策7についてです。ここでの今後の取り組みの中では歌登地区で福祉バスや患者等輸送車を行い続けることが取り上げられておりません。これは廃止をしてデマンドタクシーやデマンドバスに変更するという形で考えてよろしいのですか。

【事務局】

その件につきましては、今の運行形態が適している場合は、廃止をする必要はないと考えています。今ある福祉バス、患者等輸送車を補完する様な形で運行形態を構築できればと計画が動いております。今は福祉バスの都合で時間が決められ運行されているという中で、それで対応をしきれないニーズを拾うということです。今後議論を進めていきながら、実際の基本的方向性について新たな公共交通システムを構築します。第一段階に基本的方向性①の見直しが終わったあと、次のステップとして再び本協議会を通じてどういった公共交通システムが一番住民の利便性等に適しているのかということを検証させて頂き、その上で構築をしていきたいと考えております。本計画につきましてはマスタープラン基本計画ということですので、良いことばかりが書いてあるのですが、実際はこれを全て実現できるかというのは難しいと思います。マスタープランですので計画に記載しておけば将来的に検討をしていくという意思表示として考えて頂ければと考えています。

【田邊谷委員】

皆さまにお願いなのですが、僕たちもハイヤー業務も既に16時間務めているのだということ覚えていて欲しいのです。その時間帯以外には車を維持するために務めています。でも経営者はそういう仕事の流れでやっているのです。これだけの金額があるのだからできるだろうと思われても、できないのです。僕たちは16時間、ハイヤー業務を二人でやっているような状態ですけれども、これでは働き方改革が成り立ちません。その上で皆さんに良い案を出して欲しいのです。町の職員も夜中やるとか色々な発想が出て来ると思うのです。二種の免許を取らせるなど。一種で行おうと思うからこういう問題が起きるのです。二種の免許をとって町がそこで働ける場所を作れば問題は起きません。宗谷バスも空で走っていると思われているかもしれませんが、あれが無くなったら無になるのです。そういうことを忘れているからこういう事になってしまったのでは。

【今井会長】

旭川運輸支局の山崎専門官から何か補足はありませんか。

【山崎委員】

私の方からの助言としてはP. 53に枝幸町が目指す地域公共交通の将来像ということで、マスタープランの話がありましたが、選択と集中ということが中心になります。

といいますのは、財政的にもこれ以上支援をし続け利便性だけを上げるのは難しいと思います。国と道で補助していた雄武線、浜頓別線の利用人数が少ないということで補助から外れ、町の負担も増える中で公共交通にかけられている予算というのは上限があると思います。そういった中で選択と集中をしていかないと持続的な公共交通は確保できないと思っております。皆さんここに書いてあるような考え方でしっかり取り組んでいければ良いと思います。また、具体的にここの路線をどうするか細かい施策については今後も検討をしていく、また検討することを皆さん同意したと受け止めておりますのでこちらに書いてあるということの一つ一つ具体的にして頂ければと思います。

【今井会長】

ありがとうございます。他に何かございませんか。

【田邊谷委員】

やはり国土交通省さんのお話では予算が少なくなってくるということが主体ですよ。要するにお金が国の方からも減ってくるということですよ。

【山崎委員】

国も減りますし、自治体の方の財政にしても幾らでも青天井で増やせません。

【田邊谷委員】

私の気になっている所はそういうことなのです。許可出せる部所は難しくない。こちら民間は仕事の取り合いをしてしまうんですよ。安上がりになると、さっきから言っている働き方改革などにも問題も出て来るのです。

田舎と東京の方とは違います。要するに、田舎は全部ひっくるめてやっとな生活できるのです。それを予算内とか時間とか言われ、減便するだの言われたって動いている便の車の配置は同じです。整備する場所も同じとなるとどこを削るのでしょうか。

【山崎委員】

予算があるので何から何までいまままで通りのものを維持しようというのは難しいのではないのでしょうか。

【田邊谷委員】

人口減少だということで削るのですから、町職員だって数は減っていかねば駄目でしょう。僕たちはまともに煽りがきてしまうのです。

【山崎委員】

私たちも同じことです。

【田邊谷委員】

同じだと僕は考えているから言えるのです。そこをやられてしまうと僕たちは何も言えません。仕事があれば何も言うことはないのです。東京では自力でやれるのですから。田舎はないです。

【山崎委員】

その話はまた後で。

【田邊谷委員】

皆さん笑うけれど、笑っている人たちは安心して笑える。でも僕たちは仕事なくなり削られてしまうとどこかで穴埋めしなければならない。人を乗せる商売なのに人がいなくなってしまうのだから結局はどこかにしわ寄せが行くのだということを知ってもらいたい。それを考慮して公務員の方は考えて欲しいと思います。

【田中委員】

田邊谷さん、宗谷バスさん、ハイヤーさん、町民の立場でお話をさせて頂ければ、便利であって欲しいと願う反面、人口減少や財政諸事情を鑑み、公共機関を維持していきながらやりなさいよ、ということを言いつつも結果的には公共機関に負担がかかっているのだらうと心苦しく思いながら会議に参加させて頂いています。特に田舎は交通機関を使うよりもマイカーの生活が中心なので、公共交通機関を維持するために例えば市街に出る時なるべくバスを使うよう働きかける、ハイヤーの上手な利用の仕方を自治体からみた公共機関の利用の仕方を会議の中で工夫して共に歩んで行けるようにとするのが先です。しかし、現状ではそれでも賄えない部分があります。歩み寄るといことが大切でどちらかの意見を強く押ししてしまうとこれから何年間か検討をする時に大変だと思うのでお互いに協力しあっていきたいという感想をもっています。

【田邊谷委員】

それはライドシェアを言っているのでしょうか。私が運輸局に言っているのは安全安心というけれど僕たちも安全安心というのは守っている。でも保障のない人を乗せてお金を取るというラインを進めていけば事故があった場合、運転する人が罪人になるのです。田舎だから事故は起きないということはないのです。

【田部委員】

田中さんの感想はそういう意味ではないと思うので。

【田邊谷委員】

だって現に動いて、彼女はわかっているから僕は言うのです。それを聞かないからこういう問題が出て来るのだと思うのですよ。

【田邊谷委員】

バスに乗務しなさい、と業者にだけ言わないで町の職員も乗れば良いのです。軽く考えれば。でも誰も言えないのです。言えとも言えません。本当に僕たちは一人一人です。バスに乗る。ハイヤーに乗る。一人一人チェックして人数を確認して何人乗っていると提示する。その意味がわからないで提示された数字だけを見て命令するだけ。私たちの仕事をそれだけを軽視している。

【今井会長】

そういう意味のお話ではないと思うので、今のお話はまた置いておきます。細かい話になってきているみたいですから。

【清水委員】

私は町の財政的な話は、町の都合を考えてどうしようかということではなく、利用する人たちがどうしたら利用しやすくてより便利になるだろう、という視点から参加をしています。だとすれば個々の事業者の収益、町の補助金の関係は事前に議論することではなくて、具体化しようとする時にさあどうしようか、ということだと思います。考えた上で「これでは事業者としてはやっていけません」となるか、「町の財政的な考えで助成できる」という方向性になるのかやってみなければわかりません。今の段階では確定ではないのだから、今後の話合いに業者は業者の考えを反映させる、利用者は利用者としてより便利な方向でやってもらうように反映してもらうという考え方でいかなければ、この先いくら話をしてまともまらないのではないのでしょうか。できればそうして頂きたいです。

【今井会長】

この計画は地域の公共交通網のマスタープランであり大きな地図を作る所の大枠なのですが、この次に田邊谷さんがおっしゃるような個々の問題を事業者さんや地域の利用者とも協議しながら進めていき、具体的化する段階になってから今のような議論が逆に必要になると思います。今日は総合的なお話しという所でご理解いただいた方がよろしいのか、と思っはいます。では、協議第1号は終了させて頂きたいと思っはいます。協議頂いた今回の網形成計画につきましては9月に枝幸町議会の皆さまから意見を頂いて決定となりますのでご理解を賜りたいと存じます。

最後に次第2のその他でございます。事務局から方向はございますか。

4. その他

- ・事務局より説明

【今井会長】

ただいまの説明についてご質問はございませんか。

(一同：ありません)

【今井会長】

ないようですので、その他につきましてはこれで終了させて頂きたいと思っはいます。以上で用意しておりました議事につきましては終了いたしました。長時間に渡りありがとうございます。以上にもちまして枝幸町地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。

5. 閉会